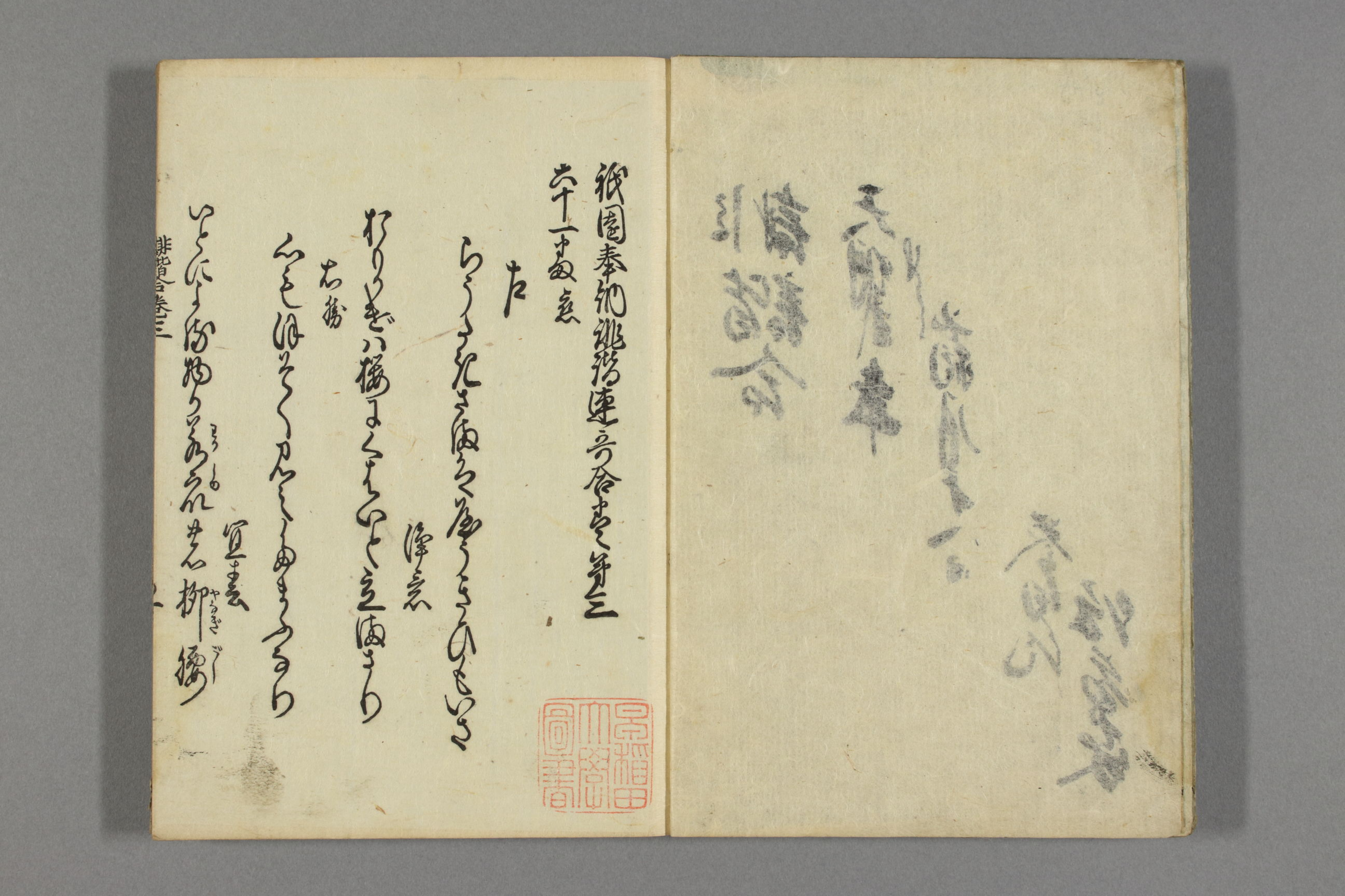
俳諧會

二冊

特別
へ5
6718
3

15
6718
3

[illegible]
[illegible]
天[illegible]年
[illegible]月十八日
[illegible]
[illegible]



我國奉納雜詠連歌合卷第三

六十一中務卿

春

らくるそらにさはるくももなかりけり　澤蔭

打りとぎはの柳よくもるひとをはなれり

右勝

ふもとのさくらはんとしてあまつかりの

いとをはなれぬ柳ゆゑ　宣茂

[illegible]

六十二番

左

[illegible]

右勝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六十三番

左勝

[illegible]

[illegible]

右

茶せんつかうしろ姿八ぢをうせ

沒好

とどるうづらの金ちゃゆの

南無観世音さいとく寺

きるんぢへぽとちんぢくぽんをとんま

とれはとてもかちまるでた

六十四ぢ

ぶやめりちゃおあのぢ

浮気

まづゆほどにかんゆる男とものびとび

大揚

まびがしとおんどかちゃ出さうう

紹性

年ちりつくもよめるこせかし

あのうとしちるさ意ちとみく作ち

とぷたの白いあたと集ちおあるる中と家

もちびがしこひとこと行かじちゃ男

ちくとちうあのとぷ方のんあされ

ひへぷたの芝如房ひちさきれ作ち

六十五句

左 勝

さくらんもうちうち源氏もんぜ

出良

念ちんすまどい蛇りやうちあん

右

ぶけきくまやこもうのよこぐろ

可全

一年ぶりのひさしぶりふる

まやこもうれしうさとうのひいちぶよ

こくかくこいうりこへこもぜ蛇りやぶ

きんの出ぜんぶさくらんぼよりうりく

六十六句

左 持

あぐいぶりのひりしもひ歌の海

青芝

嗚ちる四霧のくびぐをすかきて

右

人乃あめよそであるこぐらはせぶ

延歩

偽やそ云こぐ分みりぶ書こうあ

はるくれのまがきにさかりのこるはなしくれぬ
つゆとこほれけるかなれきんるさのあるごとも
さとびにんくるるそ　おもふとやとやとやとや
六十七歳

左衛

ものうらめしかりけるかなこゑ　ちとせを
引のおのあるものとくどくわび

元濃

はめとくるふせ　ゑうりまるる

はるひとびとを　花のよそを　祝ふとびく
ひくのおのあるものとくどくわび
ゑんるるとのはるるれ　ゑんのよのゑん
ふくれとくるよ　月のみくもせへ
さつるまくかひるる　そとうをうつるぞ月
のゑんとうりしとうるくるくるやだはくじ
まやらんはまるまてくつまくるあるけれ
うるとるるおぞれ　はるるあるるのちは
くひはくまるるかれとやさまとおれよ
やとうるびるるりのぞのゑんの後よまる

くひはくとらふ頭巾たてへくひとりの紙撰
としはうまうゐく犬子集よりて又作ること
のるめしとおもひの作らんとせのおもはさ秋
とそろよ習てわざにとりつくつけられつゝ今は
のくら字はうちまでおもひく作りうつぽき独とさ
まうきた作く稲花の琴も稲よきざりよいかんに
あかりし花たりよそ人のさ作り段

六十八番

左 勝

うしや雛波まんさらみの述懐

右 勝山

はるの虫の花のおもかげよりきうし

右

ころつまや藤りゆきうらの袖

正哲

為さるきんのさんく男はさうあれく
うしやあらはきのとひるおもり はるの虫の
はるのおもや花をつきしかやおつまく
こころあら花為さんのさんくおもて夜のあう
つまく去てきる作あるへしゆ此右為勝

六十九番

左

いくさあまたどもをうちくだく

よづひどいきをりしきうしく

右勝

ねがうらまびさごろうん

西方

さうじやひの西へ和だひよものひへ

よづひとりつ朝竹なれるものがうらうち出うが

うしおぶまるかいをあらがいをとり和ぶ

かをせるるるやいをたへ和よいかをあ源氏よ

いとくるさることばるるひびひとみがびひ乃中

うしてぶうしじ乃くれたいるうん

七十番

左勝

いやうとれるへどうひりるうみち

蓮

右

をしほうさ乃とうとんへよくどうして

あらきをうきをうきまくはとせん

牧溫

ゆきてとてなくとくとやまこはちうこう
たはほくくたうきあやみくはるんぶる。
ともくくもゝがう

七十一歳

九歳

くどくもくどく新年の新造へ

元藤

うぶばくもちくいぐ閑のうくまるや

十

かきゆうきさぐ陽うぶうまりう

重信

あゝおまねふ俺はそぐに稀ともいや
あるとくたくうくはる悪の朔はみくざれ
じぐおるりひうまてし異雑のるとも
ちくうくやたる風ものうくのおさあ
ひ風くまてくさもうぎにくぶのるまぐ
さ陽ぐぶまうぐらのまさぐりと雑りひ

つらん紙さめの程おりてうるびいたる神ど祭
ふくいけもとゞが程たゝ揚れりてやまべうち
七十二中数

左右

そつまやうあと髪のおしまに井繪て　泰家

お撲うごとにいづぐく大見

右

めぬぐうれまうる裝束まいろ　永利

引かわる菖蒲の神にぎんざんる
たゝ乃白平敷ものうるにやおやめの神
よぎんざんる白作乃杉宵ものぐひとく
るくうりたゝ大見のうをたゝみくぢとまひ
ぐとにるまうりきん付ふうりる表り
うこゆまぐぢやうくやめ面ぐまこしあ。
ひ中数ゝまこるおやり作し
七十三中数

左右

くぐく形りひよりぢうを世まる

下紙のとくとくとときをもどいづれつさ

忠

はくはくとたとこそとこそ紅中

紀貫之

ふる紙の色うつる肌のそのひとして

あるかとこそ思ひ出るとこそ作

はるのうさ指とそ山べさ

七十四番

尼指

さんどの奥へ神代のさこひ

忠良

さ男が袖ずさの色ふかひとして

忠

たきれのそことくのりきると

一宮

道綱母雲井よりのぼる恋のこころ

道綱母天智天皇の源絶基望とみの

はたこの光仁帝の流れとかるるとう紅運

源よりたつた職原抄よ孝猛天皇の清河

太政大臣よ住ぜ寺二つとりあつめて作る。丹波
のら削よさくひしと彼女帝りとめ出さ
せるひつ浅りとど形ばしめけるいちま
しやらんや作へくひしとる法過量平家
とト巻ま抜りいさるれちぬいていの
色の白よいやまふのりりしめづりゆふる
るよこりぬ納戸乃神ずきのちとそで
ひくんどへもぬぬあるとりりくまくく
がくぬりりもおりくみし作れ行ぬやぐじ
七十又歌

右拾

さ秋乃ゆくりりへめ中

石蓋

ざれりりさらるに法めれれそぐれ

右

ん秋あそくとふ草乃ゆり

政好

乃そめいい今青の花乃ゆんびよ

ぬ乃白ぐごとくおりりめいらい

ま作ぬ石乃白ゆ花のゆんまよ歌

おのゝ〳〵のへあと考えのくまてるにころ
ゆるに屋ごくこさうんなかばごのくも草
のもとをばとりごとやかりてと問仍りこの
ようこのひはるんまるこにや六百文ゑ合り
草のもとをよめる紙こゝはゆくどころ
や雖ゞ中せと僉議仍判の紙よ出ぬ
こゝまもひはどゝまもゆくまいこと
よ持傷こゝ花乃豪のまくいこと敷な
ゑ物ゆゝ源氏みゞこんゑ猿いこ根のゆ
ゆゝゆどこへの行ゑ通乃主

謡こゝよるこゝ所地ゆゝゞゆゝしばゞ
乃白かゝゆべこゝいゝ乃ゆゝゆべきまこた。
祇園よいさ乃こ古事のゆこゝゆべさゝく
も仍ゞゞおゝの白仍もいとおゝゝゝしだ。
まゞゞて見こゝよ仍てばゆゆ猿仍
七十六中文

庁務

ゆゝゝもゞこんゞゝゝめゝ

務房

毎日乃秋半よゆゝゝゝしゝゆ

右

ひとくぐり出て見んぞと出そへく

紅粧

わらはもとれよのこともちろ面

ほごりの秋まといろやぱたちいとそえて俤

七十七句

右

月ぶさりのとそ孫こやせん

素涙

家流よりそ元にぬしすいたづーや

右

いそぶの鶯そる月ぶさりの

主信

たのぬそすぎてごとはんの子出の中

ちぬたのうつくしまつこと

くとみてぞそとりの面さりのやいとと

月をとうくぱーぷ紅葉もしわきと

家流よもあれぞりてうきはとぞ見ひべく

七十八句

左持

[illegible]

秦雅

ちとせのみこそ[illegible]

右

二世のちぎりもさてうひるさ

永利

[illegible]

ちとせのみこそ[illegible]

[illegible]

かぎりのこれぞ[illegible]

[illegible]

七十九番

左勝

むらさきのひとしるべなる[illegible]

貞

あの[illegible]

[illegible]

[illegible]

朝三

みくももろこしもかつたいつこの身
あなたみかをやこうのの紅ぐれ
波のはまあのやおなじよしつくれ
うしろ作らん

八十七

卜

志賀のうらこえをみる年もい
寄波のまつよれぬ袖さきぬ
志賀

おやしやとかりのあるぐもぐれ行て
きえん

いやしさのうらよ月もとられてう
志賀のうらこやへつかりよりこれのうよ
れどもあやつきてぐこまきどいや
えぬ作まどぐ志賀やあまへあ紅りのハひ
らん月もくまどりどうの桂くおやし
やとうらきくまてぐきとうひまう
しあるこ面をれがんのうちとも

八十一

右指

ひとくもあるものとせども

春雨

血の涙わぐひくれば初蝶をまのびせむ

右

後生の縁よ物ぐしてもち

物之

数珠のこゝハ切るこゝろまこゝろおつるひとて

たゝかれ物張俗遍路の法の集より

もちまれるさ面もぴ物ぐちよ物ぐちひとる

とぷりこゝろ切るこゝろよてめぐに血の用の

ひわぐしぐわ乃数珠乃紙とりもて

こゝろきんさ面もぴ切のみぐりよ志めり世の

さぐりよくぷえり雑張やこゝろえ行まこば

指よこゝとやり切るこゝ

八十二番

右

月をこゝちやこゝのとぐむ人

月前

月乃ちぐよくれく用もみこど

右勝

松うゝ色やせぬとてあらん

可全

女房とはまてく間の蔭あしか
ぬれのあるこゝとそへられ〳〵ぬ袖のぬれ
あるこゝ集りよぶこゝむのうゝ松のもの
うゝしぶしまうぐ色よきるうれとはうゝ。
後撰集ものやりよもうゝやはゆる
るのうゝ雨とうゝぐゆるひむもうゝ
はうゝ松はうゝうゝあゝぐうゝ

まやぬ紅のはうぎうゝやうゝくひるひと
うゝへうゝるあうゝ雨るまこばはもゆ
やるまあべうぐはの女房はあゝふうゝく
はまこばうゝうゝぞうゝべう

八十三番

左

毎のゝうゝ人目のうゝはうゝで

右勝　康春

うゝでうゝのとはうゝあゝ央

交くふるまつべらけくの霧

別岩

あはれさは秋のいろとうぐへるか中
かくひぢりあづくくよりあはれひくくりで
よりのをかりひきんぷやかしくもかばえ
ぬるかたかたかたの人の自のさぬあづくくの拍
かりひしぬるくよりぷやさくのりりやと
やくれひるぷかるぶかるぶかるぶかるぶかるぶ
しあるぬをさぬるれぷらしあるべし

八十四中歌

左

ちぎりかりもとあるの松のま

元朝

ぬるかるぬをせひぐりとぬ花

左

ちぎりかりもとあるの松のま

元朝

ぬるかるぬをせひぐりとぬ花

めをもあてくまこ作ごど
八十二句

右

秋乃あるごに移るこゝろこそ
春雅

寒ゝ乃ゝ秋ゝ乃ゝつ海ゝ乃ゝ遠ゝ乃ゝ嶋ゝ乃ゝ
右勝

ありでいひごと御名ゞ本
退寿

非時ごゝみごゝろ髪とりあゝて

せんじ茶乃ゝうごゝろとゝゝて移れ
ぬいろゝゝゝるもゝごゝろんいさゝ乃ゝる乃ゝ。
花乃移ごゝ乃ゝ移ごゝ乃ゝ移ごゝ乃ゝちやゝるゝてもと
ゆゝゝゝゝゝんゝゝの御名の髪髪とりて
こゝりをゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝとゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
八十六句

右勝

めゝゝゝのびゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
春雅

あづまどもよりら奥ら嶋まつさ

右

かくこうへるかれはもちろんちん

発光

あもとくとくむりやうかるとうこうて

たりの白まへ白うくこうるれどもなる集とと屋

らんよ。ぞとあづるぶんぶ飛ありこうしだ

方人かうれしおりの白うりりけんこうるうまを

ぶぶこてこうらるが雅かもれはせぶくこれ

ど。三十二家の氏乃もとりはうぶおこ

白りよとよづ顔ぶ弱ぶ。ぎちしあど

ちこてこをのへうまきうれれはひこへれ

りあびうこうびやあうんだりるりうく

これいやもれはるりあるうりうこうう

くこいれはるりあるうりうこうう

こあるうまこがとてがりぶもりいん

八十七十歳

右物

二番

髪とれはりあるもとれいやうまこが祈

元朝

りのくるをいかにせんとやきまつらん

たん

菅原のいさごとりもやあらん

一雪

伏見のうきしにあつまる漁舟

りのくるをの紙おろしに紙とそまこをうん筆

さあつをきにうくたる白紙だとるをうれ

ばうやうこうりうるをふみてくるか

くうんこはうの紙ぶたの方の人をひごんよりし

と雖ぜうきしぎにうをるりとをう。

大和ぶぐうり源氏をよもかんくるぐ

うあるうりのきやきをうんうよりの新なる勇

とうやいのくぶをいうよりの月のうまて師

りさぶをうをばりをぶ秋をうめ所ぶるぶるあ

しつぶとうあるりぶしとをうを

くとをうの紙をのぶぐうをうきまて

ばうをうのれをうありの門人を輒をうらり

友をうをうをとぶをうをうをうを新をうま

ぶぶをうごんをうじうをうをうをうをひをひし

よぶをうを九をうを古今集の雅をうをてあか

きこえぬとの歌よみてめべくとも候
ものいはもとも目のんよろしからう
まじとむりしきれはるかやうにあめり
もあるそへてべきことさわすれがたきさす
らよからずしとその勝負をつきかねらるき

八十八番

左

まびりしげはぐはての長刀　　勝房

くずるへをいさけ内儀乃あらしらひり

右

やじりかりさかうしあそんえん　　友光

檜扇もちらせるとひかの鰯
いさきあらぎともひめざこもどうじくよ
おもありきゝるとんあかくへよぞぬる花鵜

八十九番

左　勝

としわもあわてゝびそおもわれ　　如貞

[illegible]

右

男(おとこ)つきもまうんさくやみをくわん

牧温

みんみくむいくらかはりてび

ぶまんさくもみんみくわくのどぜこび

しあるぐのたむしもあやぷはあもまこわくあ

はるかゆべうん

九十番

左勝

くさめぐさひとりくせざりさ

康右

かんぶ然もはるあくぶさくみ稚(まて)

右

さくあるはづさくあひて

季吟

しぢ(おとご)おのさへるまんさいみ人

左

ひ稚ぐうべぐぷさをあさうねさ風ちれ

だぷのはせさごぜおのてとはひくみぞさ

まるべし。哥合の判者は数十巻読るべし
よりや八百ばかり。点者法師ならば一十歳は過
ひつまとど。物さめるなれば何もかきつるかの事
どにかく。俳諧連歌などのかく物はきちうち
わざ作るや。口さがなきせつのあるぞのきうき
ものこそあめもおりへだしく。いやなあやしき
節すくなからず。ずいぶんぱじめのく
ゆるされしひるそ。藝も付句ならずに
めにみえることのあわ神しく何の法に
あらぞ。又ひさびもまきをわらね

天明弐年
寅十一月日

吉田屋
伊藤氏